

解剖と正常像がわかる！
エコーの撮り方 完全マスター

疾患と異常像がわかる！
エコーの撮り方 完全マスター

種村 正(編)

諏訪中央病院内科総合診療部/院長補佐

山中克郎

この2冊を熟読して
超音波が似合うかっていい医者になろう

救急室での診療がかっこいい医者とうそでない医者がいる。その境目は何なのか？ 彼らはおしなべてエコーを有効に使っていることに気が付いた。プローブを握る姿がかっこいいのではない。エコーを使いこなし適切に診断する、そのスピード感に痺れるのである。

スマートフォンの小型化と機能の向上を考えると、聴診器と同じように携帯型エコーを誰もが持ち歩く時代が来るのかもしれない。先進国の中でも日本はCT撮影が多く、癌患者の100人に3人は医療被曝が原因との推計もある(Gonzalez AB, et al. Risk of cancer from diagnostic X-rays: estimates for the UK and 14 other countries. Lancet 2004; 363: 345-51)。ちなみに他の先進国では100人に1人である。医療被曝を減らすためにも、ベッドサイドで行う安全なエコー検査はもっと普及するべきだろう。

本二書は超音波診断にあまりなじみのない医師にとっても、「超音波ビームがどこから、どのように臓器を横断しているから、エコーではどう映っているか」が「エコー画像、シェーマ、解剖図、被験者写真の4点セット」でわかりやすく示されている。執筆陣は検査技師の皆さんである。さすが専門家だけあってワンポイントアドバイスや陥りやすい誤りに対するノウハウがふんだんに示されている。

プローブの持ち方から始まり、肝胆脾、腎臓、前立腺、子宮、消化管、心臓、血管、乳腺、甲状腺、唾液腺、関節まで幅広く基本手技が解説されている。救急診療でよく遭遇する急性胆嚢炎、水腎症、急性虫垂炎、急性心筋梗塞、腹部大

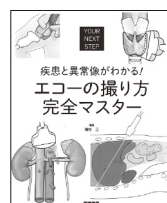
動脈瘤、深部静脈血栓症について、典型像とエコー所見、明確なアドバイスが記載されているのはありがたい。

最近では救急医療、外来診療、往診の場での迅速な超音波診断や処置(Point of Care)をもっと普及させようとする動きが日本でも広まりつつある。整形外科領域では盛んに超音波を用いた診断が行われている。肋骨骨折や肩の滑液包炎の診断に今やエコーが欠かせない。臨床の現場に出たばかりの初期研修医にも非常に有効な武器となるだろう。

エコーの達人による患者への優しい心遣いと、適切なプローブさばきが醸し出す雰囲気には静かな自信と迫力が感じられる。超音波検査は術者によって所見が変わるというイメージは根強い。しかし、聴診だってそうじゃないか。訓練を重ねなければ、微細な心雑音は聞こえてこない。この2冊を密かに熟読してトレーニングを積み、超音波診断が似合うかっていい医者になろうではないか。



解剖と正常像がわかる！
エコーの撮り方 完全マスター
●AB版/頁272/2014年
定価：本体 5,000 円＋税
[ISBN978-4-260-02018-3]
医学書院 刊



疾患と異常像がわかる！
エコーの撮り方 完全マスター
●AB版/頁280/2015年
定価：本体 5,000 円＋税
[ISBN978-4-260-02381-8]
医学書院 刊